

平成27年度を迎えて

院長 千葉成宏

新年度を迎え、病院でもフレッシュな新入職員がスタッフとして加わり、新しい運営目標を定めました。そのなかで皆様にお伝えしたいことは3つあります。

1. 4月1日から「地域がん診療病院」の指定を受けました。平成19年に「がん診療連携拠点病院」の指定を受けましたが、その後、法律が変わって、放射線治療装置を持たないため、一旦返上して居りました。今度は、放射線治療は連携する拠点病院にお願いして、5大がん（肺、胃、大腸、肝、乳腺）をはじめ種々のがんに対応するようスタッフをそろえ、ソフト面も充実して新しいスタートを切ることになりました。この4月からはレントゲンがフィルムレスになり、MRI 装置も更新されました。がんだけでなく、地域の中核病院にふさわしい診療をしていけると自負しております。
2. 今年度取り組んでいくもう一つ大事なことは、病院の機能分化ということです。これは国が進めている政策で、急性期、回復期、慢性期など医療の機能を病院ごと、病棟ごとにはっきりさせるように、というものです。山梨厚生病院の場合は、グループである山梨厚生会の他の病院とも上手に機能を分担して、患者さんにとっても居心地の良い、スタッフにとっても最大限に力を発揮しやすい病院運営をしていくことを目指してまいります。
3. この4月から、小児の二次救急を甲府の3つの病院と輪番で分担することになりました。一次救急はこれまでと同じように小児救急医療センターが一手に引き受けます。今までは時間外などに当院へ来てしまった患者さんは、小児科医が病院にいる限りは対応するようにしていましたが、これからは原則としてすべての小児救急の窓口は甲府の小児救急センターになりますので、ご理解を頂きたいと思います。

なお、成人の救急医療は今までどおり、当番日には精一杯対応いたしますので、よろしくお願いいたします。

これまで以上に地域の皆様に信頼される病院をめざして、すべての職員が取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご指導をいただきたいと思います。

● 平成27年度病院運営目標 ●

1. **地域の拠点病院にふさわしい最新・最善の医療を提供する！→「地域の皆さんに頼られる病院」**
 - * 当院の強みを生かした診療を推進する。
 - * 「救急患者を断らない」をモットーに救急医療を重点強化する。
 - * 「地域がん診療病院」として質の高いがん診療、切れ目ない緩和ケアを提供する。
 - * 診療機能を周知する広報活動を展開する。
 - * 「地域災害拠点病院」として、平常時の備えを充実させ、災害に強い施設・環境を整備する。
2. **確かな将来展望のもと、病院の機能分化を推進する！**
 - * 山梨厚生会傘下の病院・施設と緊密に連携して、幅広い患者の病態に対応する。
 - * 退院前カンファレンスの充実など、地域の医療機関・介護施設との連携を強化する。
 - * 精神科診療機能の高度化、効率化を推進する。
3. **効率的な病院運営を推進する！**
 - * DPCデータの活用、IT化の更なる推進
 - * 省エネルギーと小さな改善を積み重ね「スマートホスピタル」を実現する。
 - * 患者、職員すべての安全と生命・生活を守る。

3.0テスラMRIシステムを導入しました！

放射線科 副技師長 縄 重 亨

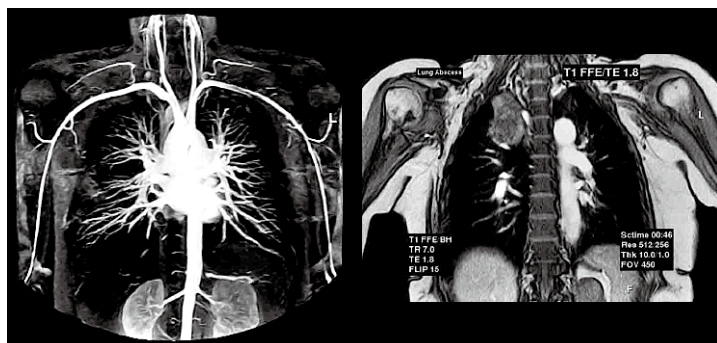
当院では、平成27年4月より、今まで使用していた1.0テスラMRIの3倍の磁力を備えた3.0テスラMRIシステムを導入しました。(テスラとは簡単に言えば磁場の強さ(磁力)を示す単位です。)

一般レントゲン機器とは違いX線(放射線)を使用していませんので、磁力が3倍になったからと言って人体へ与える危険性が3倍になる訳ではありません。

MRIは装置自体が大変強力な磁場(発生装置)となっており、その磁場の中に身体を入れると装置から出る磁力により身体の細胞が揺さぶられて信号を出します。その信号を装置が受け取って3次元画像が映し出されます。以前の装置と比べ、3倍になった磁力のおかげで今までよりも小さな病気の診断を正確かつ迅速に行うことができるようになりました。

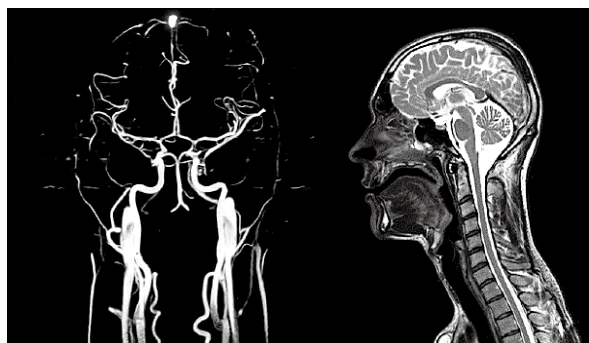
さらに、今回導入しましたMRI装置の最大の特徴は、この人体からの信号をアナログ処理でなく全てデジタルで処理を行なえる点であり、完全フルデジタルシステムを搭載した初のMRI装置です。

3倍の磁場とフルデジタルシステムにより病気の早期発見・早期治療ができ、地域医療にも一層貢献できるものと思っております。



胸部血管画像

胸部画像



頭部血管画像

頭部画像

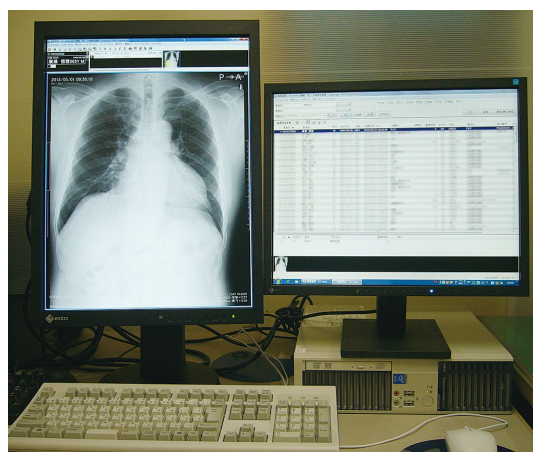
放射線科画像配信システムを導入しました！

3月末より撮影したレントゲン・CT・MRI フィルムを患者様にお持ち頂くことが無くなりました。

以前ですとレントゲン撮影後、大きな袋に入ったレントゲンフィルムを患者様ご自身で受診科にお持ち頂いていましたが、新しく導入しました放射線科画像配信システム(PSP(株)の画像PACSシステム)により、撮影後すぐに受診科の医師の前に有る大きなモニターで撮影した画像が見られる様になりました。

このシステムにより、撮影後の待ち時間やレントゲンフィルムの持ち運びがなくなり、患者様の負担が大きく軽減されるものと考えています。

診察の際も、画面で見たい場所を拡大したり濃度を変えたりなど細かな画像診断が出来る様になりました。



山梨厚生病院事務長就任挨拶

山梨厚生病院 事務長 窪 川 邦 彦



本年1月1日付で事務長職を拝命いたしました。平成8年4月に日用品メーカーの「ライオン(株)」から「山梨厚生病院」に転職し 20 年目となります。当時は医療界のことは右も左もわからず、まさかこんな私が事務長と言う重責を担うことになろうとは考えもしませんでした。これもひとえにご指導頂いた先輩方や辛抱して使い続けてくださった上司のおかげとこの場を借り、深く感謝申し上げます。

20年の間には様々なことがありました。「塩山市民病院の開設」「介護保険制度の創設によるハートフル塩山の開設」「牧丘病院の指定管理によるグループ化」等々、また本当に悲しかった三枝勇雄先生のご逝去も・・・

今、長引く日本経済の低迷により、医療福祉に対して切捨てともいえる効率化の波はますます高く、少子高齢化による医療構造自体の変革も待ったなしの状況にあります。そんな中、これからの山梨厚生会・山梨厚生病院の舵取りをされる有泉理事長には大変なご苦労があるかと思います。そのご苦労を微力ながらお手伝いすることが出来ればとの気持ちで本職を引き受けました。これからの私の役割は、職員の皆さんが快適に、思う存分活躍できる職場作りを事務方としてサポートし、次世代の山梨厚生会・山梨厚生病院の基礎を後輩に引き継ぐことだと考えています。

部長紹介

健診部 部長 三枝 賢治

皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は当センターに対して一方ならぬご支援をいただき、心より感謝申し上げます。このたび、4月1日付けで健診部長を拝命いたしました三枝賢治です。どうぞよろしくお願い申し上げます。従来の事業に加えて、山梨厚生会の理念と公益法人が果たすべく役割を指針としていく所存です。

今後も、地域や関係機関の皆様からの声に耳を傾けながら、様々な問題解決に向けて取り組んで参りますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

医事部 部長 川崎 貴洋

この度、4月1日付で医事部長を拝命致しました川崎と申します。医事部は、外来受付会計・入院会計・病歴管理・診療情報管理部門が一つとなり、患者様のお迎えからお会計まで全てを担当させて頂いているところです。

今、医療は変革の時代を迎え、保険診療ルールは大変複雑で難解なものとなっています。そんな中、当院では厚生労働省が急性期病院として多くの必要条件を満たす優れた医療機関に認める「DPC対象病院」を28年4月に取得できる運びとなりました。これにより入院医療の効率化と透明化が図られると考えられています。又、患者様への充実した医療の提供を推進すべく、29年度には患者様の診療情報を院内で共有化し、診療状況をリアルタイムに把握できる「電子カルテシステム」の導入を計画しております。

私たち医事部は、上記計画を含めた患者様サービスが、スムーズに実現できるお手伝いを全力でさせて頂く所存です。

企画管理部 部長 田中 淳一

4月1日付をもちまして、企画管理部の部長に就任しました田中淳一です。山梨厚生会は 2021 年に法人設立 70 周年を迎える歴史ある公益財団法人です。又、県内の民間病院の中でも屈指の規模を誇る山梨厚生病院を有しています。歴史あるが故に、山梨厚生会の各施設は色々な面で、リニューアルが必要な時期を迎えようとしています。これから変革を迎えようとしているこの時期に、重要な任を拝命したことは大変に名誉な事と思っています。今まで培ってきた経験を生かし、企画管理部の職員と力を合わせて、山梨厚生会に貢献できるよう一意専心を胸に精進致しますので、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

塩山市民病院院長就任挨拶

塩山市民病院 院長 多和田 眞 人



東山梨地域の皆様方、平成27年4月1日付けで公益財団法人山梨厚生会 塩山市民病院院長職を拝命いたしました多和田と申します。

当院はこれまで主として急性期病棟と長期療養型病棟を通して、東山梨地区における地域医療を担って参りました。既に高齢社会となっている我が国ですが、今後更なる超高齢化社会を目前に控え、国の医療行政の力点が入院から在宅へと転換する中で、病棟機能報告制度が昨年施行されました。そこで当院は、昨年末より急性期病棟の一部を回復期リハビリテーション病棟へ転換する準備を進めて参りました。平成27年3月に回復期リハビリテーション病棟開設申請を、関東信越厚生局山梨事務所に提出し、正式に受理されました。その結果今年の4月から急性期病棟(52床)、回復期リハビリテーション病棟(50床)、長期療養型病棟(60床)の病院に転換することになりました。さらにこれまでも実施してきた医科歯科医療連携に基づく専門的口腔ケアシステムをさらに拡充させたいと計画しております。加えて近隣の在宅診療を担っていらっしゃる諸先生方との連携強化、および介護事業・介護施設との連携強化を図り、在宅・介護事業・介護施設支援病院としての機能を合わせて、「多機能統合型病院」と位置付けて東山梨地区の地域医療を担わせて頂きたいと思っております。塩山市民病院は、これまでのいわゆる「急性期疾患集中型病院」から、超高齢化社会を見据えた東山梨地域の皆様方の多様なニーズに応える「多機能統合型病院」として、地域医療の充実に最大限貢献したいと考えております。今後も当院は、東山梨地域の皆様方に信頼される病院となるべく、職員一同一丸となり全力を尽くす所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

31 名の新入職員を迎えました



当会では平成27年4月1日付で看護師17名、理学療法士4名、作業療法士2名、視能訓練士1名、診療情報管理士1名、事務職員6名、計31名の新入職員を採用いたしました。

公益財団法人として1年を経過し、より広く社会に公益性を求められる病院として、当会の理念である「やさしく・親切・ていねいに」の気持ちを常に持ち続け、患者様をはじめ地域社会に少しでも貢献できるよう職員が一丸となり協力し合い、研鑽に励む所存です。

何卒宜しくお願い致します。

